

C

令和4年度「学力・学習状況調査」結果から分析する本校の現状と課題

自己肯定感が高く、友だちと協力してまじめに取り組むことができるが、記述力や応用力を伴う問題に対応するための基礎的・基本的な力や、思考力・判断力を伴う課題を解決していく力などに課題が見られる。

【特に克服すべき課題1】

国語科の読み取る力、書きまとめる力、算数科の基礎的な計算に課題が見られる

【特に克服すべき課題2】

支援を要する児童が多く学力格差が大きい。特に算数科の応用する力の差が大きい

【特に克服すべき課題3】

算数科の必要性や重要性を感じていない児童が多く、学習意欲も低い。

P

具体的な手立て

令和4年度2学期以降の「学力向上テーマ」  
「読み解く力」の育成に重点をおいた、授業の創造  
～文意を正しく捉え、伝わるように表現できる子どもの育成～

草津小学校の強みを生かした研究を推進する

- ①生徒指導の3機能を大切に子どもに寄り添う指導が、どの教師もできる。
- ②チームで仕事を進める、チームで対応する意識が高い。
- ③ICT機器を普段使って活用する文化があり、タブレットPCを活用した協働的な学習スタイルが定着している。
- ④漢字検定合格を目標に、漢字の練習に着実に取り組み力をつけることができている。

保護者と連携し、家庭学習の時間の増加やSNS・携帯型ゲーム機の計画的な使用等、学校でも家庭でも、共に学習に向かう姿勢や習慣づくりを進める。

ICTの積極的な活用と協働的な学習を進める。(ふだんづかいの電子黒板、タブレットPC)

保護者・地域と一層連携し、家庭学習の習慣の構築を図る。(自学自習の力をつける)

学習の土台部分(読み・書き・計算)を鍛える共通実践を行う

MIM等の活用

学習規律のある学級集団を構築し、交流を通じて比較・検討・再構築する力を育成する

授業づくりの基盤づくり

【5,6年】算数専科+担任+県総合教育センター研究員による、きめ細かな、毎日の算数科の学習

生活科・総合的な学習の時間における地域と連携した課題解決型学習の推進

子どもと教師、それぞれの「学びのスタンダード」の共通実践を大切にする

学習環境と授業のユニバーサルデザイン化を徹底する(特別な支援を必要とする子どもが安心して学べる学校作り)

C

評価の手立て

学力定着の状況分析

令和4年度3学期  
「学びの基礎チャレンジテスト」

漢字検定

学校評価

令和5年度の全国学力・学習状況調査の実施に向けて、全学年の課題を確認

個別最適な「学びなおしプリント(合点プリント)」の実施

A